

テキスト分析によるSNSに見た 2026卒就活学生の不安の変化

——活動時期による違いと他者比較——

小峯 拓樹¹ 松永 紘季² 鍵谷 一樹³ 広田 すみれ⁴

本研究は、Web上に自発的に投稿されたテキストデータを用いて、就職活動における大学生の不安の特徴とその時期的変化を明らかにすることを目的とした。分析対象は、2026年卒業予定者がYahoo!知恵袋に投稿した就職活動に関する質問・相談文であり、投稿時期を前期・中期・後期の3段階に分けて収集した。KH-Coderを用いた頻度分析・対応分析により不安表現に用いられる語彙の構造を検討した結果、前期には情報収集や準備段階に関する語、中期には面接や選考結果に関する語、後期には内定や将来の働き方に関する語が特徴的に出現していた。また、他者比較語を含む投稿では、後期にネガティブ語が多く集中する傾向が確認された。本研究は、クチコミ型メディアに蓄積されたテキストを活用することで、就職活動不安の動態を可視化した点に特徴がある。

キーワード：不安、就職活動、SNS、他者比較

1. 問題意識と先行研究

1.1 はじめに

近年の就職活動は早期化が進み、大学生は低学年のうちから準備を始めることが一般的になっている。加えて、コロナ禍以降に普及したオンライン面接やWeb説明会は利便性が高い一方で、コミュニケーションの難しさや通信環境への不安といった新たな不安要因を生み出している。こうした環境変化により、学生は通常より一層「自己表現が十分にできないのではないか」という不安を抱きやすくなっている可能性がある。本研究では、Web上の学生の投稿や発言を対象にテキスト分析を行い、現在就職活動における不安がどのような場面で生じているのかを明らかにすることを目的とした。

1.2 先行研究

松田・永作・新井(2010)^[1]は、就職活動の不安には「アピール不安」「サポート不安」「活動継続不安」「試験不安」といった多様な種類があることを明らかにした。また、就職活動不安は時期によって出現傾向が異なることが、先行研究により指摘されている。董・川崎・細越

(2021)^[2]は、前期(大学3年4月から2月)に「アピール不安」や「準備不足不安」に関する不安が高まりやすいことを示した。中期(大学3年3月から大学4年5月)には、「採用未決」に関する不安や「試験不安」が高まりやすいことも明らかにされている(石嶺・豊田・竹内, 2012)^[3]。以上の先行研究から、就職活動における不安表現は(前期・中期・後期)によって異なることが示されている。

1.3 問題意識

以上の先行研究から、就職活動における大学生の心理的不安は大きく、その不安の表現は時期(前期・中期・後期)によって異なることが示されている。しかし、多くの研究は限定された数の大学生に対する質問紙調査であり、より一般的なクチコミテキストを用いて不安やストレスの語彙や変化を定量的に分析した研究は見当たらない。そこで本研究では、2026年卒業(以下26卒)の就職活動生が投稿したWeb上での就職活動不安に関するクチコミに対してテキスト分析を行い、大学生が就職活動における不安をどのように言語化し、また時期によって出現する語彙にどのような変化があるのかを明らかにすることを目的とした。また就職活動では他者との比較が自己評価や感情に影響する可能性があり、この点は社会的比較理論(Festinger, 1954)^[4]の枠組みからも説明可能である。以上の目的に基づき、6つの仮説を設定した。

(1) 就職活動の前期には、「何をすればいいかわからない」「自己PRや志望理由がうまく作れない」「どんな職業が向いているかわからない」といった、「準備不足不安」「アピール不安」に関連するネガテ

¹ KOMINE Hiroki

東京都市大学メディア情報学部社会メディア学科4年

² MATSUNAGA Hiroki

東京都市大学メディア情報学部社会メディア学科4年

³ KAGIYA Kazuki

東京都市大学メディア情報学部社会メディア学科4年

⁴ HIROTA Sumire

東京都市大学メディア情報学部社会メディア学科教授

ィブ語が多く出現する。

- (2) 就職活動の中期には、「面接」や「採用未決」など選考過程に関連するネガティブ語が増加する。
- (3) 就職活動の後期には、「活動継続不安」に関連するネガティブ語が多く見られ、さらに「友達は内定した」「取り残されている」「周りは進んでいる」などの他者比較語が前期・中期と比べて多く出現する。
- (4) 選考の進行や結果待ち、内定の有無といった不確定性の高まりに伴い、就職活動の進行につれネガティブ語の出現が増加する。
- (5) 他者比較語を用いた文書数は前期→中期→後期の順で多く出現し、それに伴いネガティブ語の出現頻度も増える。
- (6) コロナ禍以降に普及した、オンライン形式の就職活動に対する不安やネガティブ語が多く出現する。

2. 実証研究

2.1 目的

本研究は、26卒の就職活動生がウェブ上に投稿した「就職活動の不安」に関するテキストデータを分析対象とし、大学生が就職活動における不安の時期による変化やその中での不安に焦点を当て、これらの語彙や時期変化を明らかにすることを目的とした。具体的にはテキスト分析により不安を表す語彙の出現傾向を把握するとともに、就職活動の時期（前期・中期・後期）によって、不安表現の内容や焦点がどのように変化するのかを検討した。

2.2 方法

質疑応答サイトである「Yahoo! 知恵袋」(<https://chiebukuro.yahoo.co.jp> 2004年4月よりヤフー株式会社（現：LINE ヤフー株式会社）が運営）に投稿された質問・相談の文を対象にテキスト分析を行った。分析対象データは、「Yahoo! 知恵袋」内の検索条件指定機能を用い、「就活」「不安」「26卒」をキーワードとして抽出した質問・相談の文のうち、回答文は分析対象から除外し、質問・相談の文のみを対象とした。また、質問・相談の状態については「解決済み」や「回答受付中」に限定せず、「すべて」を対象とし、不安が解消された事例と未解消の事例の双方を含めた上で、各時期ごとに閲覧数の多い上位100件を分析対象とした。なおカテゴリは特定の分野に限定せず、全カテゴリを対象とした。就職活動の進行段階による変化を検討するため、質問・解決日時に基づき分析期間を3期に区分した。具体的には、2024年4月から2025年2月を前期、2025年3月から2025年5月を中期、2025年6月から2025年9月を後期と設定した。結果として前期・中期・後期の3期間分および3期間を統合した全期間の計4つのデータを収集した。

分析にはテキスト分析ソフトウェアであるKH-Coder

(ver.3.0a, 有料版)を使用した。まず、頻度分析を行うにあたり、全期間に共通して意味のない語（例：生・月・ガク・チカ・Aなど）の除外や語の置き換えといった前処理を実施した。その後、分析に必要な品詞に限定した抽出語リストを作成し、各期間および全期間における頻出語の傾向を整理した。頻出語については出現頻度上位15語を抽出し、期間ごとの比較を行った。

さらに、語と時期との関係性を把握するため、対応分析を実施した。全期間データに対して時期情報のタグ付けを行い、頻度分析と同様の前処理および品詞フィルタを適用したうえで分析を行い、特徴語が使用されている文脈を文書検索機能によって確認した。加えて、就職活動に伴う不安の量的変化を検討するため、就職活動に特有のネガティブ表現を中心としたネガティブ語辞書を作成し、時期別にネガティブ語の出現頻度を集計した。ネガティブ語の総出現数については、各時期に均等に出現するという帰無仮説のもと、カイ二乗検定を用いて時期による偏りの有無を検討した。

さらに、他者との比較に基づく不安に着目し、他者比較語辞書を作成した。他者比較語を含む文書を抽出したうえで、これらの文書におけるネガティブ語の出現傾向を時期別に分析し、全体データとの比較を行った。

2.3 ネガティブ語辞書と他者比較語辞書の作成

就職活動をしていく中で出現すると想定されるネガティブ語425語を登録し、ネガティブ語辞書を作成した。就職活動に特有の不安の表現を先行研究や本研究で収集したテキストデータを参照しながら語彙候補を追加した。語彙候補の収集にあたっては、生成AI（ChatGPT）を補助的に利用したが、生成AIの出力はあくまで候補語の列挙に限定し、最終的なネガティブ語としての判断は研究者本人が人手で行った。同様の手順で、就職活動をしていく中で出現すると想定される他者比較語65語を登録し、他者比較語辞書を作成した。

4. 結果

4.1 就職活動に関する語の頻度分析

期間別に頻度分析を行った結果（図1～図4）、全期間を通して「ない」「企業」といった否定表現や就職活動の対象を示す語が多く出現していた。時期別に見ると、前期では「インターン」「業界」といった語が他期に比べて多く、就職活動の初期段階において情報収集や業界選択に関する関心が高いことが示された。中期には「面接」「内定」といった選考過程に係る語が増加し、早期選考での面接や結果への関心が高まっていることが確認された。後期では「内定」が三期間の中で最も多く出現しており、内定の有無に関する不安が確認された。これらの結果から、就職活動の進行に伴い、就活生が抱

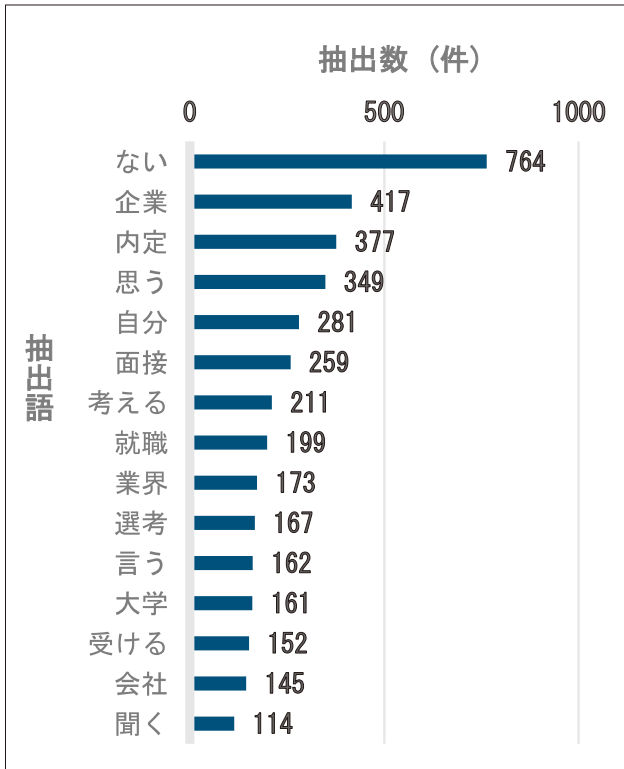


図1 頻度分析 (全体)

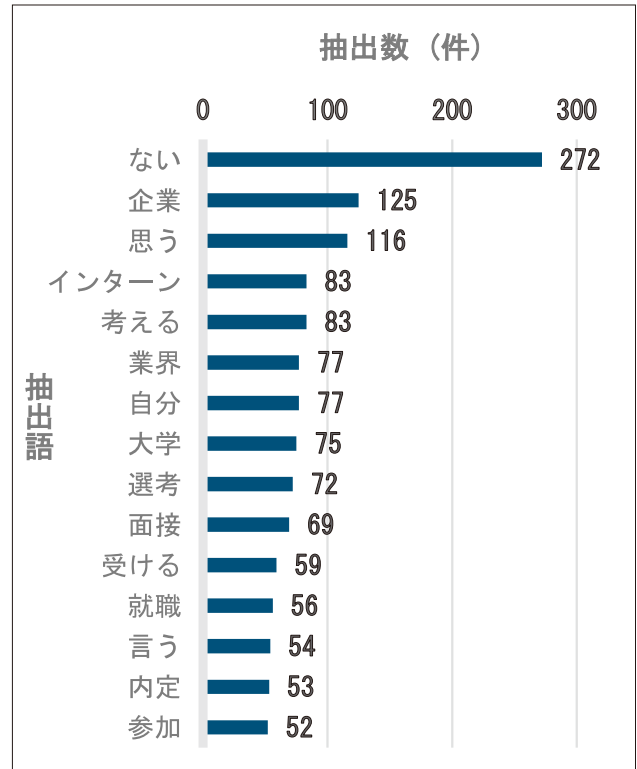


図2 頻度分析 (前期)

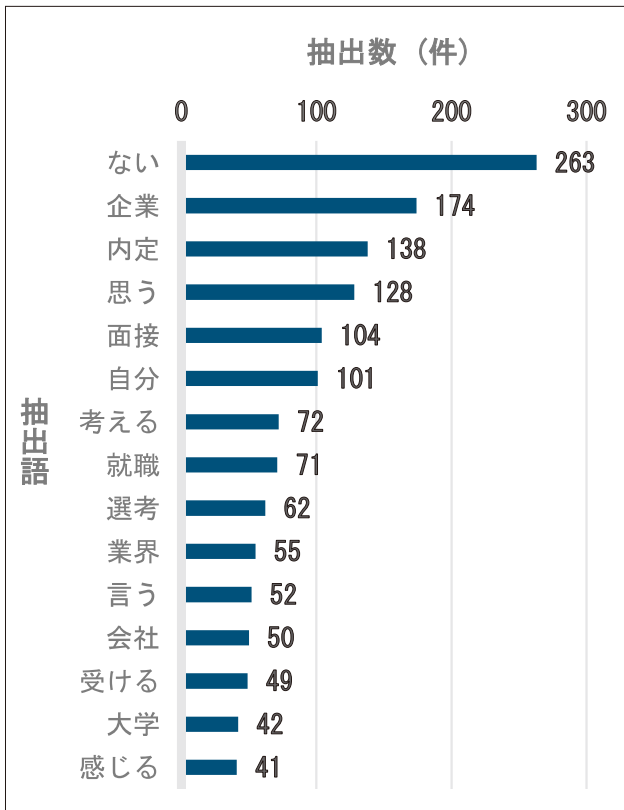


図3 頻度分析 (中期)

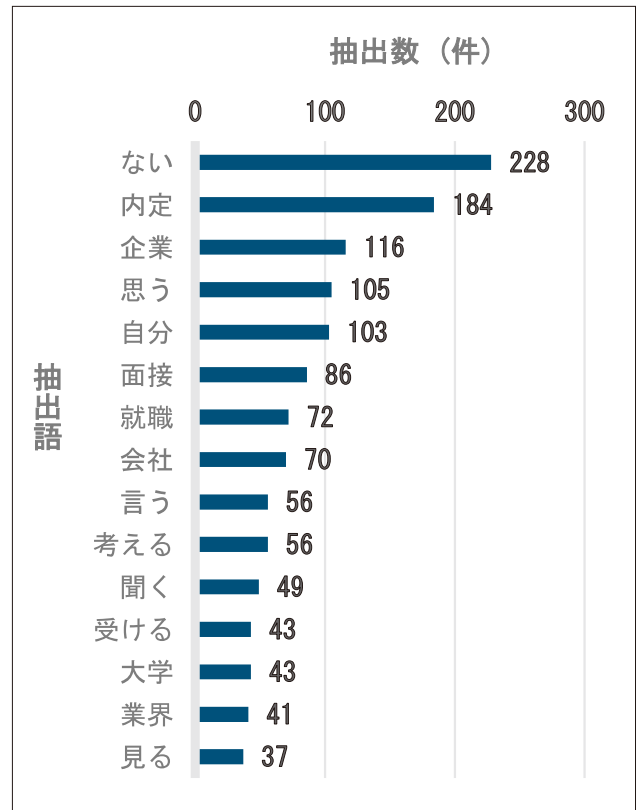


図4 頻度分析 (後期)

く関心や不安は「準備」から「選考結果」、さらに「進路の確定」へと段階的に移行していることが示された。

4. 2 就職活動の時期と出現語の関係に関する対応分析

就職活動の時期（前期・中期・後期）と出現語の関係を対応分析によって検討した結果（図5）、各時期は異なる語と強く対応して配置された。前期は「インターン」「業界」「ガクチカ」などの語と対応しており、就職活動の準備段階における自己分析や方向性の模索に関する不安が中心であった。中期は「面接」「企業」「内定」といった語と対応し、選考過程における評価不安や採用未決に関する不安が中心となっていた。後期は「福利厚生」「転職」「続ける」「転職」などの語と対応しており、内定獲得後の将来の働き方に関する具体的な不安、あるいは内定未獲得による「活動継続」不安が確認された。この結果から、就職活動における不安の内容は時期によって異なり、活動の進行に伴って不安の焦点が変化することが示された。

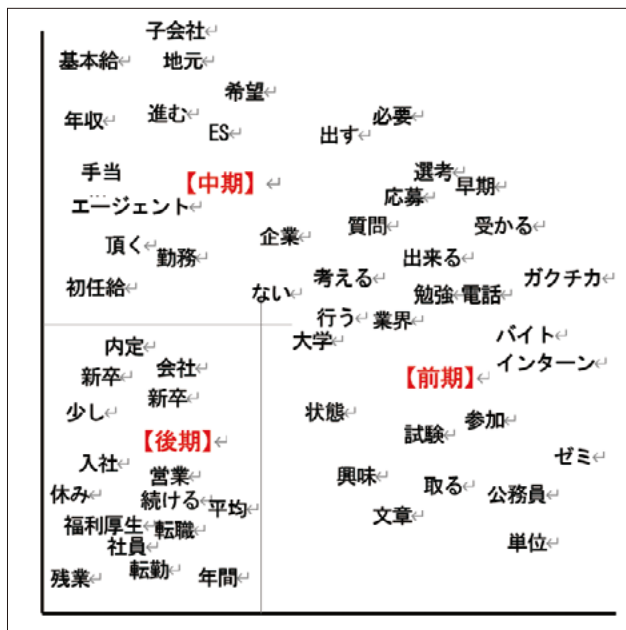


図5 出現語と時期の対応分析（同時布置図）

4. 3 時期別ネガティブ語出現頻度の分析

就職活動に対する否定的・消極的な感情や評価を表す語を「ネガティブ語」と定義し、作成したネガティブ語辞書（425語）を用いて分析を行った。その結果、図6のようにネガティブ語を含む文書数は前期94件、中期94件、後期99件であり、時期間で大きな差は見られなかった。また、ネガティブ語の総出現数は前期559語、中期603語、後期591語であり、「ネガティブ語は各時期に均等に出現する」という帰無仮説のもとで実施したカイ二乗検定の結果、時期による有意な偏りは認められなかった ($\chi^2(2) = 1.77, n.s.$)。一方、1文書当たり

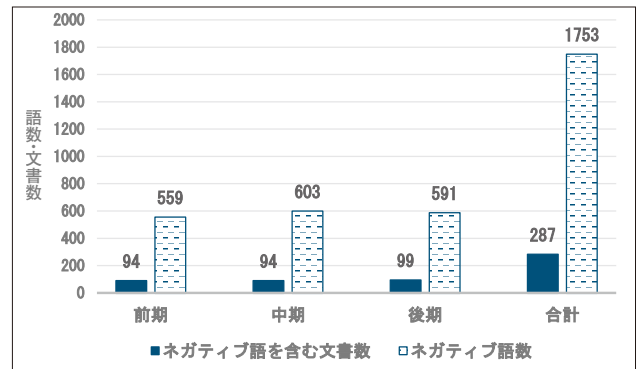


図6 ネガティブ語の文書数とネガティブ語数

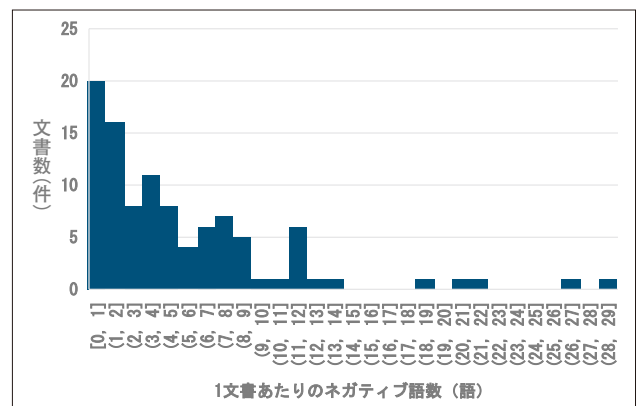


図7 前期におけるネガティブ語数の分布

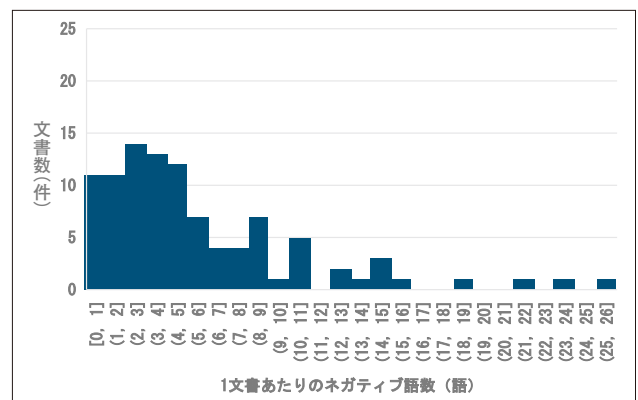


図8 中期におけるネガティブ語数の分布

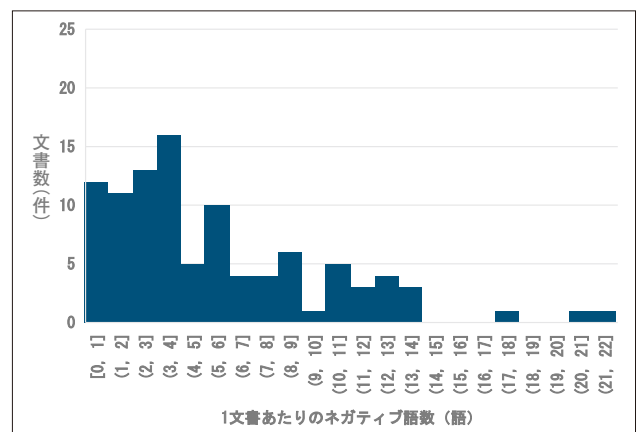


図9 後期におけるネガティブ語数の分布

まれるネガティブ語数の分布（図7～図9）を確認したところ、中期及び後期では前期に比べてネガティブ語数が多い文書の割合が増加していた。このことから、ネガティブ語の増加は文書数の増加によるものではなく、1文書内でのネガティブ表現の集中によって生じていることが明らかになった。このことから、不安がより具体的かつ集中的になる傾向を示している。

4.4 他者比較語を用いた文書の分析

次に、他者比較に関する不安の特徴を明らかにするため、他者比較語辞書（65語）を作成し、これを用いて他者比較語を含む文書に限定した分析を行った。その結果、他者比較語を含む文書数は前期26件、中期29件、後期40件と時期が進むにつれて増加していた（図10）。また、これらの文書に含まれるネガティブ語の出現数は、前期190語、中期193語、後期326語であり、「ネガティブ語は各時期に均等に出現する」という帰無仮説の下で実施したカイ二乗検定の結果、時期による有意な偏りが認められた（ $\chi^2(2) = 51.06, p < .001$ ）。残差分析の結果、後期においてネガティブ語の出現数が有意に多いことが示され、就職活動後半において、他者比較と強いネガティブ感情が結びついている可能性が示された。

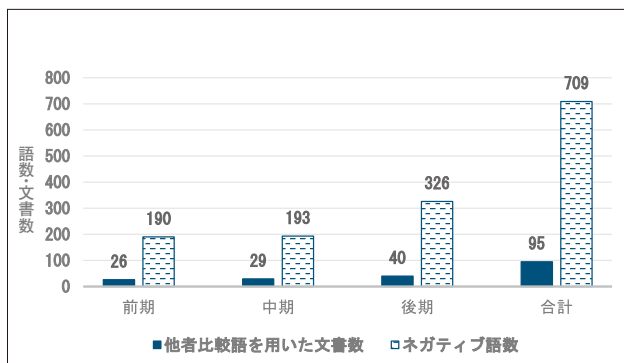


図10 他者比較語を含む文書数とネガティブ語数

次に、他者比較語の語彙数を時期別に検討した。その結果、前期6語、中期9語、後期10語の他者比較語が出現しており、就職活動が進行するにつれて、他者比較の表現が多様化していくことが確認された。いずれの時期においても、「周り」「友人」「友達」といった身近な他者を指す語が上位に多く出現していた。また、中期以降には「世間」という語が新たに出現しており、就職活動が進むにつれて、周囲の同級生などに加えて、より広い「世間」の同級生などと比較するようになってきたことが示唆された。

4.5 オンライン面接等に関する不安

「Yahoo!知恵袋」の投稿の中には、「オンライン」について触れている内容のものもあり、「失敗」というネガティブ語が使われていた投稿や、「どのタイミングで

発言したら良いかわからない」といった内容の投稿もあったものの、仮説とは異なり、その頻度は非常に少なかった。実際、頻度分析の上位100位までの結果で、「オンライン」という語は前期にのみ出現しており、その抽出数も15（順位：66）となっている。その他いずれの分析方法でも、就職活動のオンライン化への関係性は見えてこなかった。

5. 考察

今回の研究では、近年の就職活動の早期化やオンライン面接の増加による大学生の就職活動への不安がどのような言葉として表現されているかを基に、どのような場面で心理的不安を感じるかを明らかにすることを目的として、テキスト分析を行った。

分析の結果、就職活動における不安は先行研究での指摘と同様に、時期によって内容が変化することが示された。前期は「インターン」「業界」といった語が多く、「準備不足不安」や「アピール不安」が中心であった。これは、情報収集や自己理解を目的とした行動が中心となる前期の漠然とした自己評価不安が表れていると考えられる。一方、中期では「面接」「内定」に加え、「地元」「基本給」「年収」「手当」などの語が特徴的に出現し、「試験不安」に加えて将来の生活設計を見据えた現実的な不安が顕在化していた。これは、本選考が本格化することで、学生が企業を現実的に比較・選別する段階に入ったためと考えられる。前期では準備不足やアピール不足不安への不安が中心であり、労働条件にまで注意を向ける余裕が乏しいのに対し、中期では内定が得られていない状況の中で、将来の生活を具体的に想定する必要が生じる。その結果、勤務地としての「地元」や生活の安定に直結する「基本給」「年収」「手当」といった定量的な条件が不安として言語化されやすくなったと考えられる。これらの語が中期と強く対応したことは、就職活動が単なる選考過程にとどまらず、生活設計を伴う意思決定過程へと移行する時期であることを示唆していると考えられる。後期は「内定」が最も頻出し、内定未獲得者においては「採用未決不安」や「活動継続不安」が、内定獲得者においては転勤や福利厚生、長期的なキャリアに関する、主に生活条件や社会的位置づけについての「将来不安」が表れていた。このように後期になるにつれ、不安の対象が具体化し構造化するという、不安の質的变化が見られる。

なお、ネガティブ語の総出現数自体には時期による大きな差は見られなかったが、他者比較語を含む文書に限定すると、後期においてネガティブ語が有意に多く出現していた。これは、就職活動が進むにつれて他者との比較が強まり、それがネガティブ感情の増幅に関与している可能性を示唆している。なお、オンライン就職活動に関する不安はほとんど抽出されず、オンライン環境が学

生にとって特別な不安要因ではなくなっている可能性が示された。

このように本研究からは時期により不安が変化し、より具体化していき、また初期の比較的漠然とした不安から後期には福利厚生や給与といった就職の条件に関する深まりが見られることが明らかになった。また他者比較に関しても、初期の周囲の「友人」から「世間」といったものに変化していることも、就職した企業をより社会的な中で位置付ける深化傾向と見ることができる。以上の結果は、対象としているデータは閲覧数が上位であることから、こういった傾向は大学生に共通した傾向の可能性がある。

本研究にはいくつかの限界が存在する。第一に、本研究で分析対象としたデータは、Yahoo!知恵袋に就職活動に関する不安を書き込んだ利用者に限定されている点である。そのため、不安を抱えていてもオンライン上に書き込まない学生の意見は含まれておらず、大学生全体の就職活動に対する心理的不安を完全に反映しているとは言えない。第二に、各期間において閲覧数上位100件の質問のみを分析対象とした点も、本研究の限界である。閲覧数が多い質問は、多くの学生の関心を集めている一方で、比較的典型的な不安や共有されやすい内容に偏っている可能性がある。閲覧数の少ない質問には、より個別的で深刻な不安が含まれている可能性も考えられるが、本研究では十分に扱うことができていない。

一方で、本研究の結果から、就職活動における不安は活動全体を通じて一貫して存在しつつも、その内容は「準備・自己理解」から「選考・評価」、さらに「進路決定・将来設計」へと段階的に変化することが明らかになった。

引用・参考文献

- [1] 松田侑子・永作 稔・新井邦二郎 (2010) .大学生の就職活動不安が就職活動に及ぼす影響—コピーングに注目して—. 心理学研究, 80, pp.512-519.
- [2] 董潔・川崎友嗣・細越寛樹 (2021) .自動思考, 問題解決能力, 社会的スキルおよび特性不安が大学生の就職活動不安と状態不安に与える影響, 関西大学心理学研究, 第12号, pp.17-25.
- [3] 石嶺ちづる・豊田雄彦・竹内美香 (2012) テキストマイニング手法による「就職活動体験記」に対する学生の所感分析. JIYUGAOKA SANNO College Bulletin, no.45, pp.45-59.
- [4] Festinger, L. (1954) . A theory of social comparison processes. *Human relations*, 7 (2) , 117-140.
- [5] Yahoo!知恵袋-みんなの知恵共有サービス, <https://chiebukuro.yahoo.co.jp/search?p=%E5%B0%B1%E6%B4%BB&fr=common-navi>